

平成28年度
ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI
(研究成果の社会還元・普及事業)
実施報告書

HT28178 体感しよう！小さく生まれた子どもの命を救う・癒す・育てるケアの力-2016



開催日：平成28年9月4日(日)
実施機関：公立大学法人山梨県立大学
(実施場所) (池田キャンパス・山梨県立中央病院)
実施代表者：井上みゆき
(所属・職名) (看護学部・教授)
受講生：高校生25名
関連URL：<http://www.yamanashi-ken.ac.jp/news/18807.html>

【実施内容の概要】

実施場所を新生児集中治療室(以下、NICU)に見立て、保育器、コット、超低出生体重児や新生児のモデル人形、低出生体重児用の衣類を展示し、開講前に、実際にモデル人形に触れてもらった。さらに、NICUがイメージしやすいようDVDなどの映像を使用し新生児医療を説明したのちに、実際のNICUに入り、命を救う・癒す・育てるケアを体験した。

【当日のスケジュール】

- 9:00-9:30 受付 NICU 入室のための健康チェック NICU の模擬体験
- 9:30-9:50 開講式 オリエンテーション スタッフ紹介 「科研の成果」 講義
- 9:50-10:30 「NICU」で小さな赤ちゃんが育つ」講義
- 10:30-10:40 休憩 熱中症予防の水分補給 NICU までは徒歩
- 10:40-11:30 参加者半数 NICU 見学 /NICU を卒業した子どもの成長講義
- 11:45-12:35 参加者半数 NICU 見学 /NICU を卒業した子どもの成長講義
- 12:50-14:00 ランチョンセミナー 自由な意見交換
- 14:00-14:30 出生時の処置・胸骨圧迫・人工呼吸の説明
- 14:30-15:00 出生時の処置・胸骨圧迫・人工呼吸の実習
- 15:00-15:30 学びのまとめ
- 15:30-16:00 修了式 未来博士号授与 アンケート記入・回収

【実施の様子】

実施場所を新生児集中治療室(NICU)に見立て、新生児ケアを模擬体験しました。



「科研の成果」講義

実施代表者: 井上みゆき

高校生に分かりやすい言葉で講義をすすめました。



「NICU」で小さな赤ちゃんが育つ」講義

山梨県立中央病院: 根本篤 医師

実際に NICU で着用しているユニホームで臨場感あふれる講義でした。



「NICU を卒業した子どもの成長」講義

吉川由美子さん

体重 920g で誕生し高校生となったわが子の成長とその時の母としての気持ちを講義しました。



「NICU 見学」

赤ちゃん・医師・看護師さんのご協力

高校生は小さな命の鼓動に感激していました。



「新生児モデル人形での出生時の処置、人工呼吸、胸骨圧迫の実習」

現役の NICU 看護師・医師のデモンストレーションと指導のもと実施しました。



生まれました！



胸、上がっているかなあ？



指は「C」にしてね！



肺に air 入っているかな？！



赤ちゃんの体、早く拭かないと・・・
体温さがっちゃう



ええ・・・赤ちゃん呼吸している！
先生！大丈夫？

「未来博士号授与」
みんな頑張りました！



「全員集合して記念写真」
最後はみんなで ハイチーズ



【事務局との協力体制】

事務局には広報活動、参加申し込み、連絡調整等の対応していただき、実施者は企画内容の準備に専念することができた。

【広報活動】

山梨県立大学のホームページへの掲示および山梨県内の高校へ本企画プログラムを郵送した。広報活動後約1週間以内に満席となった。満席のお知らせを大学ホームページに掲載し、山梨県内の高校に通達したが、多数の応募があり10名ほどお断りした。

【安全配慮】

1. NICU 見学に際して、感染予防のため高校生の健康チェックを次のように実施した。
① 予防接種の確認を母子手帳で実施した。 ② 当日の体温測定と問診を看護師と医師で実施した。
2. 参加者、実施協力者が保険に加入するとともに、受講生5人に対して一人の割合で大学生を配置した。
3. 猛暑日のため、熱中症予防に備え、飲料水等を講義開始前と昼食時、2回に分け配った。また受講生、実施者ともに自由にお茶等が飲める環境を整えた。

【今後の発展性・課題】

本企画は3年目を迎え、本プログラム内容の有効性が知れ、受講者、受講者の保護者、実施協力者から、子どもの生命の尊さを知る有効なプログラムであるため、来年度も継続してほしいとの要望が強い。また、広報活動後すぐに満席となり、参加できない高校生も複数人いた。参加者を増やすことは、NICUに多くの人数が入れないため難しい。

先着順で参加申し込みを受け付けるため、応募開始と同時に高校の教員からまとめて複数名の応募がある。今後は多くの高校から参加してもらうために、参加申し込み多数の場合は抽選とすることを考えている。

【実施分担者】

宗村弥生 看護学部 准教授
横森愛子 看護学部 講師

【実施協力者】

11名

【事務担当者】

高野あさみ 池田事務室 法人職員